

## ■シンポジウム

## 「ストックとしての公共住宅の現状と

## 今後のマネジメントの方向性」

## ■主旨：

公営住宅が約 219 万戸、都市再生機構住宅（UR 住宅）が約 77 万戸など、数多くのストックを有する日本の公共住宅は現在、様々な課題を抱えている。

一方、全国の公共住宅ではユニークな取り組みが行われている事例も少なくない。それらの取り組みは現在の公共住宅が抱える課題に対して問題提起あるいはひとつの解決策を提示していると考えられるが、公共住宅を取り巻く課題や解決策の全体像が見えないというのが現状ではないだろうか。すなわち、公共住宅を取り巻く課題が複雑に絡み合い、身動きが取れない状況になっているのではないだろうか。

そこで、公共住宅を取り巻く数多くの課題は、ストックとしていかに適切な維持管理や活用をするかという課題と、それを取り巻く課題すなわち管理主体である公共団体の財政難や住宅セーフティネットの役割への対応などの課題の二つに分けられると考え、本シンポジウムでは、前者のストックとしての公共住宅のマネジメントを中心にその課題を整理したい。具体的には、はじめに公営住宅や公社住宅、UR 住宅など公共住宅を取り巻く現状を、量的、質的な側面から整理しておきたい。その後、公共住宅におけるユニークな取り組み事例を紹介いただき、複雑に絡み合う公共住宅の課題を整理したい。

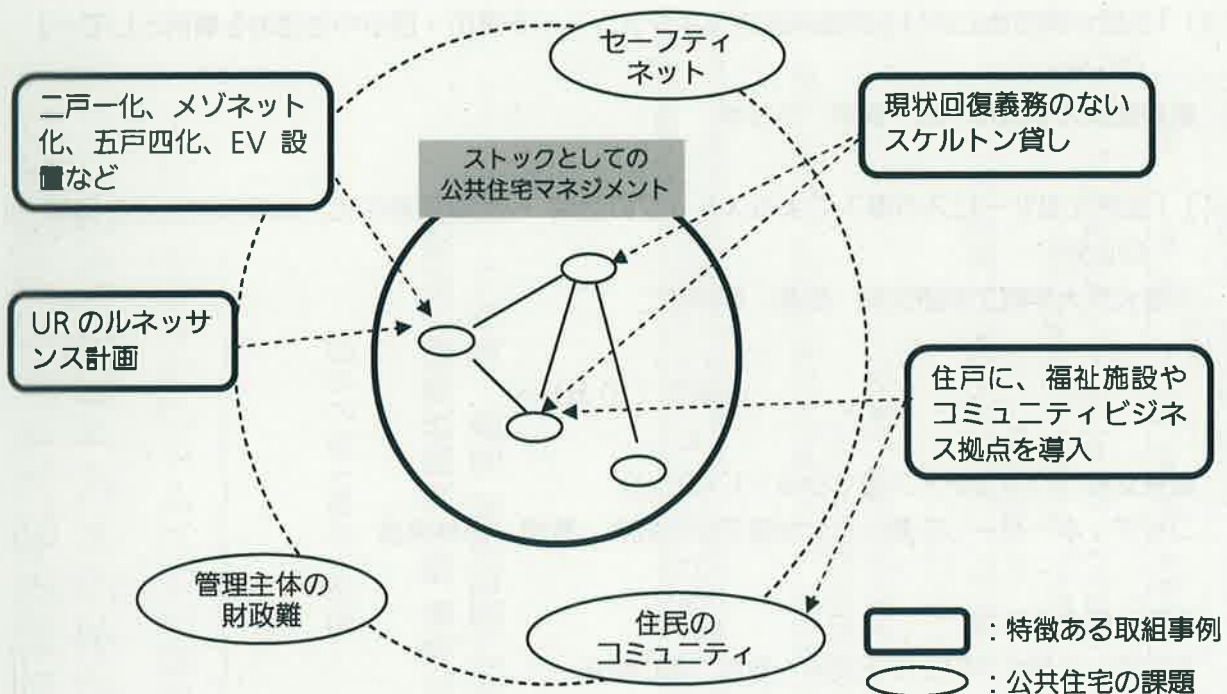


図 公共住宅を取り巻く課題とユニークな取り組みの関係（イメージ）

■主催：日本建築学会 建築計画委員会 公共施設マネジメント小委員会

■日時：2012年1月29日（日）13時00分～16時00分

■会場：建築会館（〒108-8414 東京都港区芝5丁目26番20号） 会議室（302、303）

■プログラム：

1：開会の挨拶、趣旨説明

大阪市立大学大学院工学研究科 教授 横山俊祐

2：話題提供

（1）「公共賃貸住宅ストックの現状とマネジメントについて—公営住宅ストックを中心として—」  
（30分）

国土技術政策総合研究所住環境計画研究室 室長 長谷川洋

（2）「東京都住宅供給公社一般賃貸住宅のストックの状況と団地再生にあたっての課題」  
（20分）

東京都住宅供給公社住宅計画課 課長 林健一郎

（3）「公団分譲団地における団地再生のマネジメント～千葉市・西小中台団地を事例として～」  
（20分）

愛知産業大学造形学部 講師 小杉学

（4）「生活支援サービスの導入によるストックの活用～兵庫県営住宅、大阪市営住宅を例に～」  
（20分）

大阪大学大学院工学研究科 助教 伊丹康二

～休憩（10分）～

3：意見交換（パネルディスカッション）（60分）

コーディネーター：千葉大学大学院工学研究科 教授 小林秀樹

4：総括、閉会の挨拶

大阪市立大学大学院工学研究科 教授 横山俊祐

